

Profile

マチルド・エティエンヌ Mathilde Etienne (ソプラノ)

パリ市国立高等音楽院にて古楽、アルジャントウイユ音楽院にてオペラ歌曲を学ぶ。M.エチュヴェリ、R.ヤカール、M.キングに師事。レザール・フロリサン、ル・コンセル・スピリチュエルをはじめとする主要なバロックアンサンブルに参加、フランスのみならずヨーロッパおよびアジア各国でソリストとして活躍。女優として10本ほどの映画に出演。最近作は、フィリップ・クロードの『すべての太陽』（2011年）。演出家としても活動しており、2009年にはビゼー《カルメン》、ヴェルディ《マクベス》を演出する。また、ラモー《ソアラストル》、クーラン《ルソンド・テネブル》、シャルパンティエ《テ・デウム》など、多くの録音にも参加している。2011年、ヴィラ・メディス・オール＝レ＝ミュール賞（アーティストの海外派遣プログラム）を受賞し、日本の古典伝統音楽調査・研究のために日本へ派遣される。フランスの新しい世代を代表するバロック音楽のスペシャリスト。日本では2012年北とびあ国際音楽祭でのシャルパンティエ《病は気から》に出演、日

寺神戸 亮 Ryo Terakado (バロック・ヴァイオリン)

桐朋学園大学卒業。1983年日本音楽コンクールヴァイオリン部門第3位。その後デン・ハーグ王立音楽院にてシグスヴァルト・クイケンの下で研鑽を積む。ラ・プティット・バンドをはじめとしたヨーロッパを代表する古楽器アンサンブルやオーケストラのコンサートマスターを務め、リーダーとして優れた資質を発揮し、またソリストとして数多くのオーケストラと協奏曲を共演。初期バロックから後期ロマン派、印象派に至るまで、ソロ・室内楽で幅の広い活動を行っている。ヴァイオリンチェロ・ダ・スパツァを用いた演奏活動も精力的に行い、J.S.バッハ《無伴奏チェロ組曲全曲》録音ではレコード・アカデミー（器楽曲部門）賞を受賞。「第1回北とびあ国際音楽祭'95」において、パーセルの《ダイドとエネアス》で指揮者デビュー、以後ラモーやモーツァルトなどのオペラ作品を中心に公演し、日本で最もバロック・オペラに精通した貴重な存在である。デン・ハーグ王立音楽院教授、桐朋学園音

上尾 直毅 Naoki Ueo (チェンバロ)

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業後オランダに渡る。オランダではチェンバロとフォルテピアノを学びそれぞれソリストディプロマを取得。現在、国内でレ・ボレアード（指揮：寺神戸亮）、オーケストラ・リベラ・クラシカ（指揮：鈴木秀美）、声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」などで活躍している。2012年より雑司が谷「拝鈍亭」にてハイドンの鍵盤作品全曲演奏会のシリーズを

笠原 雅仁 Masahito Kasahara (テオルボ)

武蔵野音楽大学声楽科卒業。声楽を宮本昭太、有村祐輔の各氏に師事。英国王立音楽大学、大学院古楽科にてナイジェル・ロジャース、スティーブン・ロバーツの各氏に声楽を、ヤコブ・リンドベルイ氏にリユートを師事。パリ市高等音楽院古楽科にてホルネットをジャン・テベリ氏に師事。「エリマ」、「カンタル・ロンターノ」等と共演、録音に参加する等、国内外で活躍中。「アンサンブル・プリンチピ・ヴェ

エミリアーノ・ゴンザレス＝トロ

Emiliano Gonzalez Toro (テノール)

チリ人の両親のもとスイスのジュネーブに生まれる。ジュネーブ音楽院とローザンヌ音楽院にてオーボエを学び、一等賞を得て卒業。その後、声楽に転向し、ミシェル・コルボ指揮のローザンヌ声楽アンサンブルでデビューする。団員として、ボヌ、ユトレヒト、ラ・フォル・ジュルネなど、様々な音楽祭に招かれ、モーツァルトの《レクイエム》、バッハの《ミサ曲 口短調》、モンテヴェルディの《聖母マリアの夕べの祈り》などの公演に参加。その後、ソリストとしても活躍するようになり、ラモーのオペラ《ダルダニウス》《プラテ》のタイトルロールを務めるなど、今やヨーロッパにおけるバロック・オペラ公演には欠かせないテノールとなっている。今シーズンは、ルセ指揮のリュリ《ファエトン》のタイトルロールを歌い、ボヌ、パリ、ローザンヌなどの公演で大絶賛を浴びている。日本では2012年北とびあ国際音楽祭でのシャルパンティエ《病は気から》に出演、変幻自在の歌唱力と演技力で複

中嶋 克彦 Katsuhiko Nakashima (テノール)

福岡教育大学音楽科卒業。東京藝術大学大学院オペラ科修士課程修了。同大学院オペラ科博士課程修了、博士号取得。2012年より文化庁在外派遣研修員としてドイツに留学。マインツ音楽大学のバロック声楽コースで研鑽を積んだ。宗教曲やオラトリオなどコンサートのソリストとして多数出演しているほか、新国立劇場や東京室内歌劇場、サントリーホール・オペラアカデミー公演など、オペラの舞台

大内山 薫 Kaoru Uchiyama (バロック・ヴァイオリン)

京都市立芸術大学を経て同大学院を首席修了。大学院賞受賞。博士課程にて学ぶ。在学中より京都フィルハーモニー室内合奏団などで活躍し、その後古楽の研鑽を深めるために渡欧。デン・ハーグ王立音楽院古楽科にてバロック・ヴァイオリンを寺神戸亮氏に師事、ディプロマを取得する。仏シャンゼリゼ管弦楽団より2年連続で全額スカラシップを受け古楽音楽祭 Festival de Saintes に参加。福岡古楽音楽祭、北とびあ国際音楽祭など国内外の古楽音楽祭、コンサート、録音、オペラに多数出演。2011年より寺神戸亮氏とのデュオ公演『2つのヴァイオリンによるオペラ』を東京、大阪で行い好評を博す。現在は関西を拠点とし、バロック・ヴァイオリンでの演奏活動を精力的に行っている。これまでにヴァイオリンを長谷川孝一、石川誠子、久合田緑の各氏に師事。レ・ボレアード、クラシカル・プレイヤーズ東京、アンサンブル・プリンチピヴェネツィア（初期バロック）のメンバー。『サロンで聴くバロック音楽』の主宰。

エマニュエル・ジラルド Emmanuel Girard (バロック・チェロ)

パリ・ソルボンヌ大学で美術史、ラングゾー＝フランス国立東洋言語学で日本語を学び、パリ国立高等音楽院をチェロ、室内楽共にプルミエプリで卒業。卒業後、同音楽院の古楽器科において、バロック・チェロと通奏低音を学ぶ。横浜国際音楽コンクール審査員。ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者でもある。現在、桐朋学園大学音楽学部の特任教授として、チェロ、ガンバ、室内楽の指導を行っている。宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。バッハの無伴奏チェロ組曲 CD(NAT Japan)、'20th Century Folk Cello Solo'(N.A.T)好評発売中。創設メンバーであるアンサンブルマレラで、フォルクレの組曲をナミレコードより2017年秋にリリース。使用楽器(チェロ)は1750年作のC・A・テストーレである。

新・福岡古楽音楽祭 2018 Information

10/26(金) 18:30 開演

福岡シンフォニーホール

新・福岡古楽音楽祭第5回記念公演

「オルフェオ」(セミコンサート形式)

【料金】S8,000円 A6,000円

(学生券3,000円)

【演目】モンテヴェルディ:歌劇「オルフェオ」

【出演】エミリアーノ・ゴンザレス＝トロ

マチルド・エティエンヌ、寺神戸亮、

鈴木美登里、谷口洋介 ほか

プレイベント

9/13(木) 18:30 開演

円形ホール

寺神戸亮が語る

「オルフェオの世界」

【受講料】無料(要整理券/

定員100名)

8/1(水)～受付開始

10/18(木) 12:15～13:00

コミュニケーションエリア

アクロス福岡フロア

コンサート vol.468

【出演】廣末真也、倉田輝美、太田耕平

【曲目】ヴィヴァルディ:

トリオソナタ 二短調

「フォルリア」他

【鑑賞無料】

10/23(火)

12:00 開演

福岡シンフォニーホール

アクロス・ランチタイム

コンサート vol.69

「ラ・フォンテヴェルデ」

【料金】全席指定1,000円

【曲目】モンテヴェルディ:

マドリガーレ集より

【お問合せ・チケットのお求め】アクロス福岡チケットセンター TEL092-725-9112 (10時-18時)

※諸事情により、記載内容が変更になることがありますので予めご了承ください。

※学生券は、小～大学生等及び留学生本人に限り表記料金にて販売するものです。お申込みはアクロス福岡チケットセンターに限りです。詳細はホームページをご覧ください。

新・福岡古楽音楽祭

検索